

<今回>310回目 2022年1月21(金)15時~18時 第8会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p384、不明の学問僧たち より

<前回>309回目(22-1-10)出席者 6名

資料(22-1-10-1)前回のまとめ(清水)

一2)奈良新聞(21・12・28)第4面記事(和田)

一3)前畑遺跡と阿志岐山城(榛葉)

A 報告 無事にクリスマス、新年を乗り切ったと思ったら、オミクロン株の強烈な感染力から、また今まで以上に用心が必要な年始を迎えました。

B 資料2) 歳末の奈良新聞第4面に、関西古田史学の会正木裕氏の邪馬台国は近畿ではなく北部九州博多湾説が全面に載りました。古田武彦説とは一言もありませんが、多元の会でも近畿説を否定する立場から、和田事務局長が奈良新聞を20部取り寄せ、9日の定例会に配布した残りを頂いてきました。

要旨は①2000年代に卑弥呼がもらったという銅鏡100枚は材料分析から国内産であることが証明されている。三角縁神獣鏡は500枚以上出土し、しかも魏の年号のない景初4年入りの鏡まで出てきた。②2016年墨痕のある石の破片が硯とわかり、2020年まで過去の石片を調査し直し、硯と判明したものが博多湾岸から続々と発見され、卑弥呼の文書外交や交易の状況が推定される状況になった。③2018・12・大阪歴博で開催された「古墳時代の都市化の実証的研究」として卑弥呼時代に最も都市化の進んだ地として JR 博多駅南の比恵・那珂遺跡地域である。奈良の纏向には依然としてそれらしい発見がない。大型の建物跡として細い木柱痕が発見されて中心地らしく発表されている。④C14年代法の研究が進み更正法が進み、箸墓は3世紀後半から4世紀前半に引き下げられた。⑤橿原考古学研究所で長年大和地方の発掘調査に携わってきた関川功氏は「考古学から見た邪馬台国大和説は畿内ではありえない」と出版した(梓書院)。どこまで学会で認められているか。⑥須玖岡本遺跡で古代の権(分銅)で11gを基準に3倍、6倍、20倍の石権が弥生中期の遺跡から発掘された。2021年9月1日に10倍権が発見され10進法が確かめられた。韓国慶尚南道の茶戸里(タホリ)遺跡では青銅製の11gの権が発見されている。魏志倭人伝に「南北に市有り、交易す」とあるのをうらづける。畿内では亀井遺跡に基準値は8.7gで2, 4, 8, 16, 32倍の権の系列が発見されていた。半島との交易は近畿ではなく筑紫ということが証明された。(この権の発見はだれがいつか5W1Hの根拠が書いてない。公知の事実か)

3)榛葉氏より、大宰府を囲む土塁として筑紫教育委員会から前原遺跡の13次発掘調査現地調査資料が示され、大宰府を巡る羅城の概念が示されたが、近くの阿志岐山城を通過していないことに疑念を持たれ、同じ筑紫教育委員会の阿志岐山城調査報告書(2014・3・31発行)の神籠石山城の報告書と比較して、大宰府を包囲する羅城の一部としての前原遺跡がなぜ阿志岐山城を通らないのか更に疑問が深まったことが示された。

一1)のまとめを読み上げて本日は読書は前に進行は出来なかった。旧唐書の倭国と旧唐書の日本国の空白間隔は55年間から48年間に縮まったが、その間に日本書紀には654年7月に唐の天子に接見、2月の渡海した高向玄理らは日本国の神の名や地理について質問を受けて、すべて答えたと報告している。

2022-2-4(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

2-25(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

3-4(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室